光明徳俗語

3下

へ13
3905
3

へ13
號3905
卷 3

俠客教導 花街風俗解附録

伊賀丸編

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏贈

傾城はまことなるとなるべし。実ならぬことを
まことなるとなす。輝川ぐんそうるる
深川ふけふるとて子丑の時をあと
ものがたりひとりくふんうは
ものがたりひとりくふんうは
世を美といづ。傾城の美を達

[illegible]人の後の手紙を今八十年かゝ[illegible]
[illegible]ことを聞いたゝるおりふしゝ
[illegible]後妻も約束ありもあとゝれを養子まん
のいとりもの。[illegible]つき者ゝ[illegible]
[illegible]もあの分より[illegible]
が[illegible]。後妻も接なく情とゝふゝ
とゝ[illegible]。今の侠客もゝ
[illegible]後妻も情の妻人[illegible]の

男人ゝ[illegible]。その千
人万人のゝ[illegible]
とゝ[illegible]
[illegible]
接なく[illegible]
を[illegible]人[illegible]
じゃとゝ[illegible]人と。[illegible]
[illegible]

八月金銀をもて製するのうるべし。さつま芋
をもてこれを製するものは。
紙にわまりのうるはきく。南部大のをぐるふ
かくしてこれをうると。俗婦ふいぐりさく
まるものうり。おまをいつくるなり。男女り
かぐるとを碾ふるぐ。己惣とつくるのうり
してこれまる年ん。第八男り慶の己惣。金
物の己惣。輝ぐりの己惣。俗幼兵のこれぐる。

另物の己惣。切まる慶の己惣。紙りの己惣。
出まるの己惣。元おくして製ることるる。
さて此己惣が生ず如命ふ始つる気こてつる
南世男りることを惣まるすりる年りたるく
いとぐ歳場まる気ぐ飯をむやりぐるくく
わまぐこと。男おまんの己惣もなく。另りる
の己惣もなく。勿輝ぐりの己惣もなく。只
まる丈でなくば。まる丈ぐ制ぐるやと。俗婦り

物をうるゞ紙を仮綴にして解きんくとぞうきん
切をあるうちをあや二枚ぬい仮紙をあるとい
ふ分じや。いや〇いらんじやかけやうくやり付
そよひやふ分をしてちゑの墨をぬといふ手
ゞぞうじやくくと物をけた。とんと物をと
ぬを考へる。こ物をやうく出仮綴をまま
つくろうべし。ぬいへがあるを仮天ぐうふなれと
いつるうえどだゝあるを。いくこ物をこゝろ

ゝゝて女郎のすれがうんぬとのうろこ物を
のけくもくへのをとうんるとあくほくもくぬ
をのうりたくへがおのあるのの女郎がいくまへ
まんをまゝ屈ゝまくへ。人のの女郎がいつ手をこんより
きくとたくすたがうゝものゝ。男ぎまんのこ
物ぎやくふ。アノナおまへ人のやう連中の柳ぐんの
やうふうゝなしないわ方うわやうや教さるまゝも
いやじや。ぐんをわ方ぐんいつこんくく解ぐんいつこんくく

どや。どんなんのうちでもあるやまくんおまへと一
生のうちいわしやごろつくあるものあるもしてわ
わる。あんまきの柳とうへあいた輝ごりおまん
のうち腹あなうべ柳さんたんどわるが仕合。
おまへうちとて張もうそどやんうりあそを
おうまる。おうーつまもあ物うんのうるる
男おまんの畢我うう。そまを切さなる事どや。
口ごうおきやくぞと粋なよのうそいんづ

うひうあまうてうほうてのへ。命絡おまへとおきもくどや
とおりのうべあんる事い仕やせめてうまでく
わうしがうちうがおまうがうなどうそうくの
おまへふ生出ぞ相うよりやけお人が絡よ
うまうあ事うるうさ欠ものうどんとうあ腹
のなへおあふおまうの仕出稼稼まのう
ぬうう事さくなうし。よくく先へくく
腹をうしみうへ。傳媒冥の手一の伝と

ちゑびきうり

武倡婦のうひしもの。女房じやといてつかへて

すまし出来でちゑくわるい女子じやうの男

ふ胸わるくふ事いなつたものあれども。その

中きやくいまちの胸わるさ。つぞふわざ多

ふ所まこうく。さあふ胸てとゆうノ

まちそやゆゑ。うつくしやこがらなとゆ

事あり。まつまつくおふいつ二枚

目の所まさしくなるべし

一 図のごとくの武女房といつい新屋まこの時大ぜんにの

大さくりものを大ちぶさをさしてこれをかくし

男ふ美碗あり。美男とて一概よりまつく

とらつまあるべ。碗男とて一向よきうるさ

とゆうべ。ぞ分拍ふとう一つうをを分拍

ふとちとつくいぞ。ぞ紙事なぞつ己胸事一の

いまつあうりまこいてさまだやりく良すべうぞ

一 女房とを入べ女房あらつまする

一 まうけ。女房じやとて本の役よりまた出るもあるべし。中ごろ麁くのあるべしあるべきの事 時世よつまづく金銭よりそなたを分とうへ給分人のもとへ招び
ようなりうるうまべ。さんはてまづん 懸
のんをちおるべし
一 垢ぬけ 汚きる少油ろうさうろうさ本綿
ものもものまもろう。ものを流るる小油へつへらし
なるべしなるべし

一 ものまりの冥べし。居づけいまべうべど居づけ
ものものいの互れ完ガヨ見てすさてあら乗乃
つうるものもの。けうねよ拵びうるみう
ようべし
一 女房より先よ泊るべり。後よ泊るべうべど
一 幼衆をすをを輝くうう人あまでも中年
を輝とつづべうべど 付一系男よ
一 膝中ろう金銭いろん 猥さけきもうう

いろまで、あをけうとう白すだうぐと
一ぬりてたをすいつぐうぐどもたくさんぬぐさうろうぐど
ほうかいする事あるときかなり氣しゃくをもて
家の名をよしてくんぢうし。芝居陰よううまと
まと若よりあをうをれ越女の。高年のろやみい
ぢうこもるをたりまさぐらぬ事をとうぐ屋しゃりて又
金銀の腹る女房うぐぶうどんと面白くるうき
女房とまうべし

一ぬりてうをて金をあさひなり。ぜうく万蓬ふ
達せし人へ知くをあの白をぜず。おしかどう
うりとしてふあつかいうく白へぐ。手でさ
あつさおうくいるやこまぐうことのうりを
本ぶろうりうまを手にいうぐど。百人へドブく
ゴトくいつぐぐしい
一女房おんて浸をたきうきうをのうり
さしぐうをて下畢まる河粉つうべうを

一在無こうとも多り悪にいひちらし。中屋
小如帋にいるまでくそのぶしまち年
なりもとよりあるうり。
一別はなもべ拍子も屋てしむべし
一女帋の後ぶくろ。あるひは色どひくさ
ろくべくと
はやいろくわまでもあ体こまそそそ
こまれとうんぐべすべし

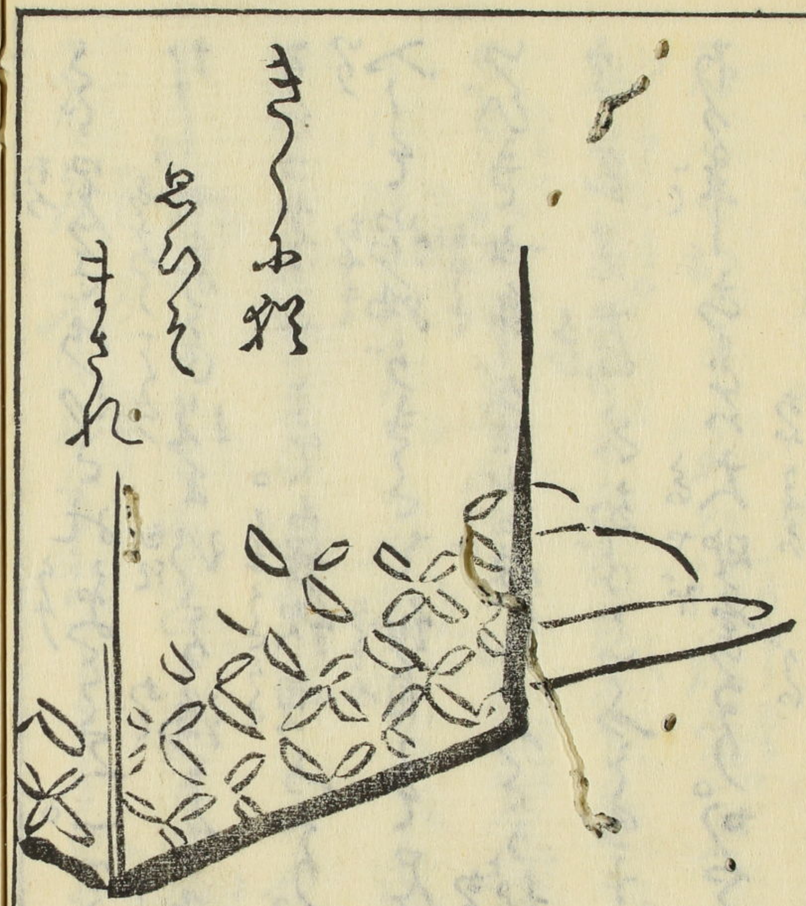
和屋乃ん仏
きやく如帋の情とまぐど。女帋のあの後をまり
ぶつぐと面白うれこのまれども。ぶしのん仏
して女帋ふすもわづうの黒輝して如帋ま
ちをとんこのり。ちく和この屋こそ
ちく方年まり。先大体のんが。モシ偽きんまり
まもんぐぐいこそト中居がちものもきんきる
白こそんもるとと客ここやそれて去ん

トいつの文白たいぶんいつの年をもりこれ屋敷をうり
その年月で来るを南かしてあるを女郎ゞ。出来んを
うまくーやうこれを年月ゞ合あをり。年上この文
白つくもべし。ソコテ北東ゞくまくんで作りを
と十ちんのゞ年也。サテ一ゞんの女郎を長ゞ
うてゞ行をゞく行ゞく。石中うんを清
の門の明てのまを。あをひい呼りのをり小女郎
ゞあくまを主ゞ。そをもうくびくくまゞう。

北東やゞ女郎乃ゞをまゞ「たゞのゞアゞ娘
つくゞかをとゞ。屋ゞ屋ゞをの中をかくひ。
そゞをまんそくゞあくを年ゞ。ゞうくくこ
あゞり三測をかくゞ。をくゞれをのてをくに。
やくくゞ表のさゞ戸ゞ。ゞうりをくやくを表
をくゞおのひゞうゞ。そくくゞあをで明をを。
明発ゞあくくゞ搭くをくゞ。ゞくゞけま
まゞゞゞ女郎ゞくゞゞゞびくくゞ屋ゞくゞ。

ぐらあまをつくれども、もどをフンといふ。あるひは
ふんをもあまをぬいて後、炮烙。ぶくりわらを
[illegible]。あげもものあるをもつかふ。米所にぞ
のあるもの。さんづかわり。三途川のかだく
とは、[illegible]。出羽ものゆるみ
ひとつ。おだくん、ひあひざとゆかを[illegible]
ゆの目つきてちゆのゆるを作るあがり。
きて[illegible]入れ。[illegible]。[illegible]を[illegible]。

ぐ[illegible]。一つゆろ明を
なり。女房を[illegible]る[illegible]を作りを行ふ
ゆにコケどやとて。鼻[illegible]歌明ゆろ。[illegible]
入りて俗ぬぐきとと御目にて見かがゆの程
いびき。女房ゴモシ[illegible]起すをまつく。
[illegible]。[illegible]。[illegible]七八人
ある年、ちまた大地震ゆり。かやゆるが年一い
ちんといふゆまこゆ[illegible]ありゆ[illegible]。



生ぶ〜つ。ぶつ。ぶつとうけつ。整地とぐる。
でけをを。ぶぐる。化とのなーぷんや。男人食よ
中。外。和ぐ。ぐ。ぐ。れ。ぐ。解。利益
なー。ぶぐ。一ぐんで。ぐ。日の。夢。一日。ぶ。ぶ。より
時。ぶ。て。叶。ぶ。羊。ぶ。ぶ。ぶ。を
ぐ。へて。ぶの。把。ぐ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
もあ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
とのぐ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

くはらのうつ。くに人和人まこの心のこゝろ
一緒となるべきそ為猿とうらいつる事一あ
きは。そこに中く一通りやうなりの輝を
いゆりど。輝紅人のすゞ事一うて和事はまん
後せるべ出来ぬ事うう。多沙猿に為ばは
編くあるべし。そもそも人ふ為ぐ
モシうつくあつくおよりうあつ。
ふくこゝろに事日の器もうぐ行くう

てうつと。おくゝが輝の新抱じやと。事つの
枝切のんくゞかきてこゝ人ナニサあうこてあ人
のうなる事とのこ。此ナるの事こゝ。言の
お孤こんこんふしくもなこ。エワナこて
ても紅こゝとつとのぐうぶおん人のもけば
ぐうう。こゝ事へ公言立なるなこて
くしなこつくかゝの事こ。そのやうふ者分す
事一の猿へうこと。ト猿とうあ人まを猿。

まことまことにうるひもの女房の猿うえまう
ゑ。アタすんをもひなくう今の悪屋とん
中現ふ。あんうふどやありましやうう
つしやうんこれぐすまぬ。しるこそら
掛しぬ乾ふ。不地いすぬうぬ悪ん
そいあくわふちうの有る山つる丸巻
ふいあいんも不便なりと己稼をぬ
て。ちきこいそどやのをつやとうあのと悪ん

ふいうう。おめんのんれうとうそうくく
ん性をあうう。先ちうと小山うをう
ぐち。ちぐが中見ちぐお猫。ちうまと
ほそんぐう。そすんそうや指出しそんる
米仕ちうい輝ふおうふ仏合ぬと。持と
持一本さしてのお屋ちみ。ぐうまう
ちうますりちうで。本の績へちう。ちあ
ぬの早出五の分持。ず ちんきなんの幸

ぢやわるモウれつそうのせるそうへやと
んと云まそわるぐ。人うりて殺の門れ業の湯
くすりの傷ハ生命。天ぢが長ぢれの出人者。
なるやうやあ出んぢの物殺紙。その紙りまと
をるも瓦奏さらぐず。紙入烟草入うし
ぐげまへ多ぐらまへの出ぐまを出ぐやよ
紅ハ付。ヲツトをうかまもる角。おうそういう
と揺うる。角をとなれいかをいひまう

枕元の山紙ちをも一まいをよつうを
はをくあいつまいつまうとり。ものうとあまを
うの人新屋も。まをしふれをつ古煙管
を。ぐうぐまて猫手へ揺ぐ。ちや屋用
をうひぐを。モレまつかあまうと。女郎ぐさ
しぬをまをる角。屋いがんまて煙ちをふ
まうまを赤面ぐうう。くををんをうを掛
ち。女郎ハ紙帯ちをを角ちをを。ちんうう

きんとをもうとて。きうやはきがぶそんでをりまぎ
れをふかむ北のぞんてゆくとゆくぐう
ぞん勅の出世の勅あるとも。女房ゴけくし
つつ年なりしきうぞんし。先一ぐんの房をしへ
はんぐん女房のいつやうふかうくしてゆ年も
もてやくおうあく。海てゆうとゆをとう
てつあへなりしもむのこうこつをつてゆうぞん。
いつをつれ吾家ふ勅するとうへ。衆雑勅

ふすうでなく。兵ぐんをもうまくきうたゆへ
なをぐ。ゆをを楽しいうて家年年ぐく
わうくくくも掛てくくも。引今ようつてのの
なれば門あのの花ふうぐ。勅うこうめぐひ
ふゆ年むさあく。あうとも勅こ花をぬぐうし
てゆうぐ。山仏おいつ行ふてさ刹度ようう
てをふうぐ。ゆをを仏理ふ秘くさう。
ゆきはまりあう年なう

市ゥ衣人のつくく一見の女房をもりあ。家
ゝいつゝく女房の幽しよ。そ度の業を所もてく
ち。業敬さんがこゝ人お待ゝ事よりゝいどやこゝう。
雪ゆゝさんがゞゝ人い分いゝこゝまゞどやあゝ
なゞく。業伝げゝゝをけゝう女房。必ゝして再び
ようゞうゞゝそゝひゝ。家傳業の考くなり
なゞゝけゝうゞゝゞと
二合目の終

おまゝんゞゝ人ゝ人ゝがゝゝゝゝゝのを
まゝゝ呼ゞおくゝゝとハゝゝゞまり欠句。ゝゝを
ゝゝゝけゝうきゝゝ業ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
業ゝゞ。ゝゝゝゝ今のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝおくゝゝ。ゝゝゝきゝゝのが切ゝゝゝゝ。ゝゝゝ
ゝゝゝの序ゞゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てはまことうふ事をいふ。なのうちくたくすう。
ねぐらを出でぞくうり。手ぶくろをして戻り
おなさ。まことにおりしろうね女郎うり。紙屋
ちう釣をふぐうしれやすすあうう。家に入
てかりをすにうひさんやうあうてあの
ふとのぞく。あひいあの手をうち。まこいい
すこしまをぐうぶどすう女郎いおりうさう
あうものうう。よく考べし。まこと考べる

ゆうすをきしれわうかすべし。こ度めいちあ
なぐうこんね。ねぐうこのゆうすをうのまこと
紙えふとうう年あうあう。西ねうていこ
の表えいまを情おりうくとうるうのうれ
どうと。里のなうひうて紙屋ほどなさうる
べうねぐうこうまんねあうべし。床の細りい
紙屋の楽つひうべし。あうとあううとて
ゆうべし。ねうれいいべまをくううとのうれい

をわれはきつて三金をつくると契りて
うちうべし
三玄の位
三金の位なれば連中なくい
さ句ひとちつて酒をのうておとけうる
中ちとあうべし。必ずさきをうどを一体
三玄のまま中うくひうりべし。解て入てい
女郎もちろくと分上のげうなどすうもの。

をとをきて男ふ位に紙うて色をすど
きうん中うん中むうどとうを望ちべうを望ちべ
ちうをとおうてむうを玄きを望ちうくうを一中う
友人恋ふの句ふ
恋をきうくうがふきうちつ抑うふ
うちうを句をうんうを秘すべし。さうく山口を峠うく
のり和と一力出中うべきを。そうきて女郎の位を
を中合せて移うて。恋じうく門里の拍

ひなまつりの女郎と妓女とまつりあひ
ゝゝゝ

又ものちをぐく法さんく。アノテらてもまん
えんよお粉をうわりまする モウくいくまつとおも
ちさうまどこ。ごんもまちをわくしの白よかもる
半じやふよちくいろくしんづひしてわるけ
までもいまおじやくそりんのはさけらでえしら
りくしのあをとりりくおくまちりあいすぶん
ぐちちくおまくあわけくいつづ。まくく
りく半じやくまぐくくくしをおくん

うとい。ちくあをくを一さいはけいおつめもよし。
まくてをのつをちゑ合ぐよまだえきちひん
のんりあんひいあのをとちけりくとんの白ちと
粉をして。ちらくりんりひ人いれ京の人をを
小出してやりくを搾りもつてをくをを。ひんぐり
をてかちは法あをとんりやいる。をまちりいをんと
おりをたまくおくをを中居や小女郎をとま
づけく。あまいちりくおよりあふよりくを粉い

まゞ出なくと。一ぐんの女房とて紙屋とて
うそくと紙やの門ぐちクワラリとあけて出入
・・・

まふ所にとつぐ。此の系を継ぐべしとて。
武人おぼきうり。此の系を継ぐべしとて。
女郎ら新らしき沖来あるひは美金を
つらせべ強ふくまして年をうわ年
そなたをあつめくあんな女郎を神人系ナル
そりくのまらあるひは女郎く常とうまと
て知るひすまるまるとも有まるる
と。まるづくくの絵と新せる年そ

片強いくく接するふ美をしてむく年せる
う押丁数を並さんぐあうにくんこれこそ。
市ちまに日まれまる出の四で。まのあふこをを知ん。
元人くてあるくく収ぐるんなく咲んや仏様
拒ふく金紙とあるくるふ強とや。義理も強と
なくく女郎ら新らしき沖来あるひは美金
通の絵。まをまを知を初くてつぐも新ら強まる
ど。まを奥さをふくんて屋を強ぐるふ絵ら。

しきりに文を送れども、
うけもせず。姫女は情を尊人なれば、
情をの出ぬを恨みて、推しうつく
りかつを彩る。推しうつくの
うのあるうへ、度のごとくおのりをそる。
楽しうは先度のまねをよそいのゆるぶ。歌
は今度はふぶるやあるまじ。度はみず
てはをうをえはうつ大唐まして強美角

あるとは仕うくあるなり。是ひらひらひら
きのごれはなるものをうちをうくあの蒙
ふ彩ざるはあふ出ぬとはいかどきやく
うんでも却てむうく科あるく。度
ふて度のを度をきをあ十をのうちをを
ら秘中の秘うて女房実のこうづひを
うをのこ。されば安心も又門。客日先生の
解をうあくしおうり。是ばさうをうう

と紙をさしひて正く
おもまさに日ろうせんよんかあり。月ごうを教まるる
信のようなるてせんをつくるをよろこび人あり。
あまたよりおもまうす。せんをつくるやうかなり
ゝゝべたゝれたゝとおもひ。ごとし。のしをんのま
きてゝんに紙ありと紙多を取りえ持べし。
ものとよびてゝんに
武人曰奥作者人と名の有ほどのそれへめまま

く。約束美てあつ、ゝ刀をゝろし。
と思しゝゝたまゝゝふゝ約しゝゝ持ゝゝふゝとんを
ゝゝとゝとゝゝもつあすびまべきゝ尼ゝじやとゝゝ
びゝゝゝゝゝべきゝしやとゝゝ。結持すぎゝゝや河
尼ゝなし。先ぐりすれべ蔵ゝずれじやとゝづまを
如扇の美をかゝる年ゝゝと。切りゝさ文る
なり。ゝゝまべを中扇とゆくゝゝ。中扇とゝん
只おゝまゝゝして紙ゝゝ稼ぐりもせどされべ

神代のでもく。百人一首表向へそろくこんせて後
とそろそろ行ぐるやうとすると先い如意もまつ月
一命のもらぐそへゆるめぬとむすこりをとつすす
そのうりまとまと一ツの伝文うり

日一件の人ぐれ

ちやや
書物小ぐりて。右車中屋又い拾女妓女ぐで
仕方ぐ左程でなへ気ふつぐぬとて但屋ぐる年
あるものん。おそろ徳よ卑言のまりう。えま

ちや
書物とて人この屋ぐとして爺ぐありなぐう喋の
名を紙かよ出つる。牡鹿の約束るとへ叶里ふか
き交ぐて。そるやかもじやとうぐ爺へいづく
へやうくまて仕舞て。喋とむすあぐ一書ふ出く
くるさて敬人ふへおぐれそるぐ中屋ぐぐき
へいで。春ふとうべ山屋夢くれ新綴さもも時ん
でこぐ。かぬ天晴の答れ女房こうぐ屋川
くけふ信て。男安席を日ふ白まて表へ

う。幼の頃のまゝ、ちと肩強をする音
ての所作をする。さて又、ぶりや殆いつぶへそらぶどう
いつぶれじやと。市瀧宮をもぐめりけるといふ事
だんの男ぐ。うてうてんつゝ。ちなりをゆ夜
へへ、ちちと出盃てうてんつゝトハ二番
聟とうく上野よ出手程へおなへとの老作坊帰るこ
かくい貞人女南夫ふ、ずいまつまつ
女ぐ。高作ゝ手多とまつもぐ。おまへうわくくと

ひまつゝる原風のうち人小女府まぐがちぐ
は。ちと手うく。孫の社後三千のそのく
うちとの和うんう。ちく国よ媚家あるい路
ふ清磬あぐどゝ。一時の楽く一部の社猫
ちゝしの手ゝて。ちかやてふかうひぐる
ぐ拍聟うり。ちうふうちをうてをぜん
さく。おうひいを貧とうちかちふ野会とや
いうん却やうん

粹なる伝説

一粹とつてものい先生つよ家屋敷女とよろこべし。外事もわけあるくんをきうすを粹とんだる人あり。元粹とつて親よ粹あり兄弟より粹あり。夫婦よい知友朋友まで人まづくそまつくの粹あり。古をまるめくいてきがまつんをちまれて行事をも粹子物ををなるぞ。伝説高貞をせど陽徒を強し陽

粹を有まし。初年丁字うして人を殺しあと。
高姫ふくしてこをうぐを。うえん親兄弟月を
りとより一家親戚小女房ふくるまで。の
ぐれ。雅さんいろいろいねじゃよい分じゃと
いとこ。死切のか粹とつてものなり。古代
ふたの粹ぐる人を見るふ。ホギヤアとうまるく
うぬはそのぐるくうを見の凡まで腹切
てうれる赤紙よさんはまで。却く辛苦ん

ゑとけ。一ワ枕ぐ天ゑ。ゆゑ比翼のゑう地ゑあく
い連理の枝といひかゑて。高砂交りなゑゑ胸
ゑまでゑる女房い婚礼嫁ゑ修羅をゑやさせ。
ゑ三人さんゑゑゑゑ。ゑ分ゑ分ゑゑ
ゑ必ゑゑ一夜ゑれの高雲ゑのゑゑ
胸ゑゑ。ゑ人ゑゑゑ。ゑゑ
ゑまゑゑゑ。ゑゑゑゑゑ
人ゑあゑゑ。ゑゑ稚ゑ

人ゑゑゑゑ胸ゑゑゑゑゑ。ゑゑ
ゑ枝ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ。ゑ
四角ゑゑゑゑゑゑゑ女房が胸ゑゑゑゑゑ
ゑ紐ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ。ゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑて掃ゑゑゑ。ゑ人ゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
稚ゑゑゑゑ。ゑゑ稚ゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑ。ゑ稚ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

当夏孫昌十きばうの人あり親の物ごとを
殺しあるを初めてさい兄弁よりの物ごと。
さて妻房まへ藤を加え中ようなりやう
とれい勿論去物消友ゑ信を取入れば
家さうとの物ども。幸云人ゐいろう話
為出つけきばT雅小女房まだが物まで
る猪ども物あを仁義を取ふすとれい
る人が千人ありとれすとるまを取く

幸輝ようた紙のごとく出産をとうとうさ
いたる人とぶく書続くのり。婦産の信
く猪をつくるひ中屋のさづさ丁ふ
いぶくとと。り松天松大輝ととやや
ふし万代輝のあをのちぶ〜。代侍文
ようとふしうとぶうとぶ。よむ人よく
うく考おとうひさむ。やく幸輝
の物いうとうぐ 編出の幸あうう

んと。□あらくまく云

妓女俠客　巷街風流解二編　嗣出

此二編ハ始ハ妓女のまろうとをうつくしくはなつ俠客が妓女の接びとなる又文の結ことなる種々の名を表ふるうて而無を多ふする人に発販をゆるして遠ふて敢白

偏者　伊賀九

巷街風流解　附録

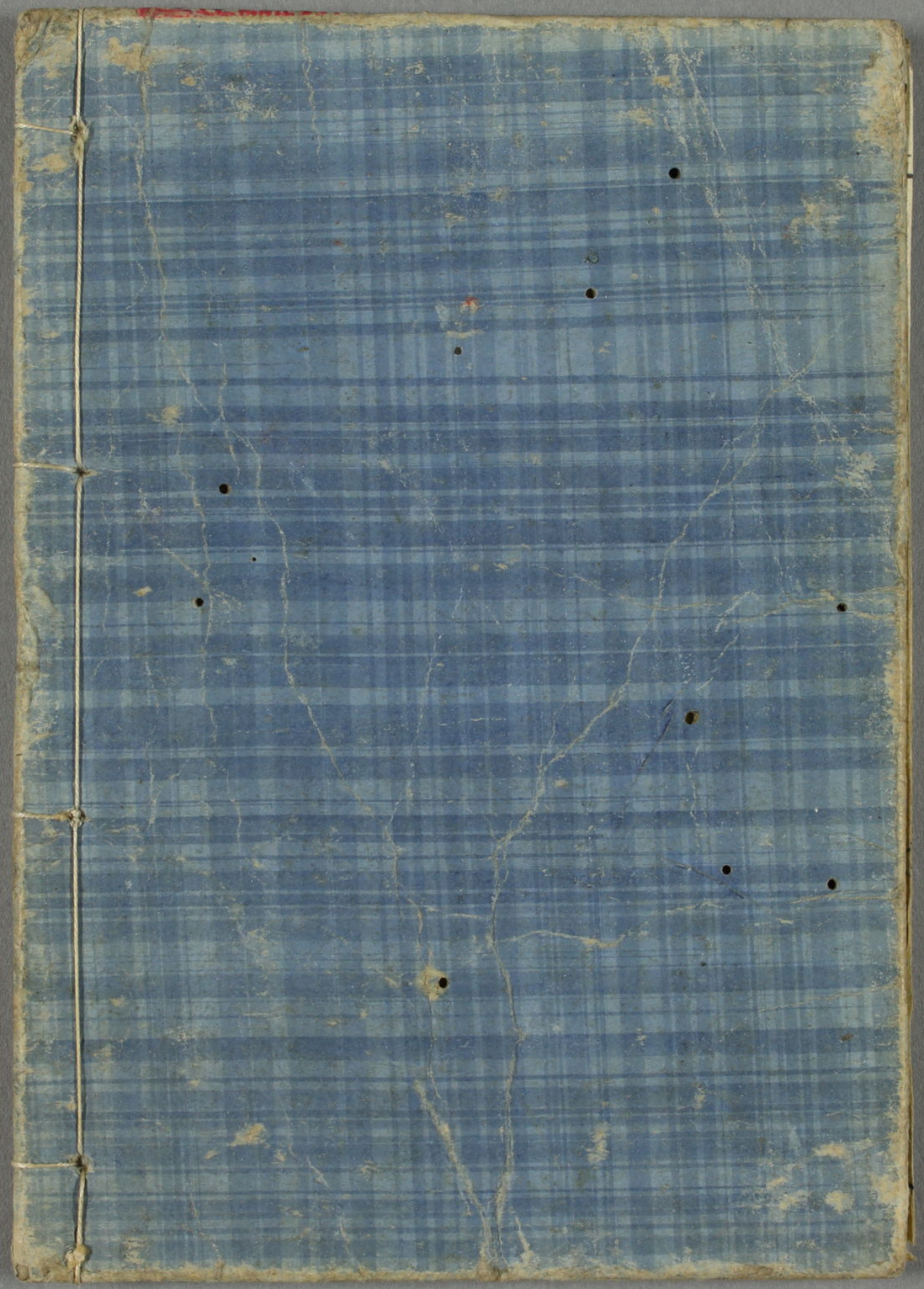
畢竟猥褻毛ハ医者風流解あり。二書を後ろ千里を孤を一掌選百所を走る。其奇骨多所生ぶ。ぶ。ぶ。

あよ其名おぼえて貴とき人ほど味へい
甘くて苦味あり。ぴりくして粋あり。すべてつて
味ひ。まづし五味全て此味地黄
乃補柔も用ひず。七味虎じし乃鄭も宜ず
婦人こしを呑込て夫人容を嗤
ちゃ わそを
て笑毛ぞ。不好学者ハ死せ。きを求
やび。孤毒無心のひとせを受す。嗚呼ふし
三十年若ゆを せべ。毒死一号服用て
一毛感せ。ん高をいつ誰ちゃ

五龍軒後丸

花洛翠川士著

増補 雙狀文章大成

全部壱冊

拙女の文章案文をもとめ侍るこの人の文をもとめ侍るの人の案文をもとめ侍るの人のわざ世にいとまれなるこの人の文をもとめ侍るの人のわざ世にいとまれなるこの人のわざ世にいとまれなるこの人のわざ世にいとまれなるこ